2005年11月1日発行



リエージュ市立近現代美術館蔵 (c) SABAM, Bruxelles & SPDA, Tokyo, 2005 ジェームズ・アンソール「仮面と死神」1897年

抜群の想像力、そして大胆で過激な色と形。現代美術の先駆者の一人、 ジェームズ・アンソールは、1860年避暑地として有名なベルギーの港町、オーステンドに生まれました。「仮面と骸骨の画家」として知られ、彼の代表的な作品には、様々な仮面や骸骨が登場します。人間の心の奥に潜む邪悪な感情をある時は大胆に、ある時はセンチメンタルに、そしてユーモラスにさ え描いています

この仮面と骸骨というモチーフは、彼にとって、とても身近なものでした。 母親の営む土産物屋でカーニバル用の色々な仮面が売られていたのでした。 また、若い頃から体が弱く、黒い服ばかり着ていたアンソールは「死神ピエ ロ」というあだ名がつけられていました。そんな彼にとって、死とは身近な ものであり、骸骨=死のイメージだったのです。

ここでは、展覧会で紹介される約140点あまりの作品のなかから《仮面と 死神》という作品をご紹介しましょう。中央に骸骨、そしてそのまわりには 仮面をつけた人々。みんな表情豊かで、おしゃべりが聞こえてきそうです。 素顔を仮面で隠しているせいでしょうか。なにやら言いたい放題みたいです ね。しかし、彼らの頭上には、なんと大鎌を振りかざしている死神が。アッ という間に誰かのもとへ降りてきそうな気配です。

アンソールの描く世界は、あまりに強烈で、発表する作品の多くが非難を うけました。そうしたなか、彼は自分の芸術に無理解な人々を仮面として描 き、皮肉ったのです。パリでようやく印象派が認められた時代にあって、ア ンソールは、ずっとずっと先を走っていたのかもしれませんね。 [鈴木典子]

2005.10月21日(金)~12月4日(月) 2006. 2月24日(金)~3月26日(日) ギーが生んだ異端の巨匠

磯井正美氏は、漆芸家・磯井如真の三男として高松市に生まれ、予科練から復員後、漆芸の道を志しました。科ベニヤを貼り重ねた積層素地、漆の層の微妙な斑文の変化、点彫りでにじんだような色合いの線が得られる往復彫りなど、磯井氏は様々な手法を考案し、蒟醬(きんま)の可能性

すが、みなさんはいかがでしょうか? そして蓋の表につがいの黄アゲハ蝶と紫の小花をリズミカルに組み合わせています。円環状に紫の小花を表現する



を展示いたしますので、どうぞ心ゆくまでご鑑賞ください。

彼で食さり年丨デる談でア内でリス入統か のはなぎなにル うん

写をエし、ル 事の実え彼続二 にけ十彼 こがよて年は まあのメるい間こ く説 イとるにの まは 「風渡ル で定の野変 0 でもか昼うわてワ

ユの役

0

で模品

r

1

ヤ 気ス マレンジでなら、 出の で き私し開 るもた放 か野の感

メ気し一映り領の皆

家場の物のか存アラ気クはす

フ お ラん

°知メンに大

シさ

にが画

0

T

ま

フがで彼りなょを画のも

画登女の女うご

のす相語子

《舟遊びをする人たちの昼食》1881年 コレクション蔵

出った でが、 0 はい何々も 重か烈野 へに猟のュッほ本た かなう野出解でラパどにそ 間 お つか本 そ さ りこ との描 と屈表かれれ 1= わ匂さ生回禁す う |でに登 うん 食 ま料 か託情れにとずには わらずには一の獣) るジーでに登っては日場ではまります。 ではまりまります。 でに登りまります。 がを ねな外か託情れに で、 べんす スむ 雰の らもが 囲レやな 人て 珍も強の工期たなピロる絵れう

# ず はこのル ゥ ル の 作品をじ つくり とご覧あ

語料人るよ気食てくののル昼あ

つ

たは見

で中

もにお 何消そ料種をえら理類

彼当 0

らた で

なたま料皿物は会野

理はがワ

見

ま

ょおまがどいン う腹せ、うま。

のんメなす。

|頭で

丸ごと

0

に売られ きの

T

1

・ラビ

イど

のりすぶ

えンか

が外

河

描

T ラ 0

遊

ブのに

ありざ続

せ肉 ま

け まの

す んは

で島

やれ

ン数テび料種一で

で

つははう話

つ理物映ねにべし肉お果に食

の実りの

いこ登はまか

の場あす

▲「ゲント美術館名品展」ギャラリートークを終えて [4.15-5.29]

ベルギー・ゲント美術館の近代美術作品を 紹介した展覧会。他国の美術の影響を受け るなかで、多種多様な美術動向が生まれた ベルギー近代美術。本展でそれを知ることが できたのは、大変有意義でした。お客さまも、 神秘的な美しさのある象徴主義の作品をとり

わけじっくり鑑賞されていたようでした。さて、 美術館の「におい」が好きと言う知り合いがい ます。一般的に絵は目で見て楽しむものだと 思いますが、作品を受け止めるのは視覚だ けとは限りません。個人的には、たとえば、今 展の出品作レオン・デ・スメットの《室内》を眺 めていると、全体にもやがかかっているように 描かれているためか、作品から湿り気が漂っ てくるように感じられました。みなさんは視覚 以外の感覚で作品を味わったことありますか? [末原香里]

# □ 「都市の美術 高松市美術館コレクション展Ⅰ」ギャラリートークを終えて [6.10-6.26]

今回のコレクション展は、4つのテーマに沿 ってご案内しました。作家の一人、鴫剛のトリ ッキーな作品の前ではお客様と一緒に唸り、 やなぎみわ作品では異次元に漂い、佐藤正 明の穴だらけの地下鉄では、皆さんの目を剥 いた顔を楽しみつつのトーク。そして、9年ぶ りの展示となる田中敦子の《電気服》へ。力 み過ぎて早口になったものの、電球の光の 饗宴に見入るお客様の姿に、ご紹介できた



喜びで胸が熱くなりました。失敗談も一つ。 ヨシダミノルの作品で、最初から固定されてい るプロペラの一部を故障と説明してしまったこ と。後で私の勘違いと知り猛省しました。それ にしても「都市」は何と多様な顔を持っている ことか。じっとしていないで秋の街に出かけま しょうよ。アーティスト気分で。 [高木由貴子]

◆都市の美術展ギャラリートーク風景

# し「藤城清治の世界展」ギャラリートークを終えて[7.22-9.4]

光と影の作家、藤城清治さんの展覧会場の 入り口はまっ暗です。「わあ すごい」。中に 入られた方の口からは、まずこんな言葉が飛 び出します。藤城さんご自身で作品の配置、 構成を考えたこの展覧会。つまり会場全体が 作品なのです。その藤城ワールドへ一人一 人が思いのままに足を踏み入れていただけ るように、今回のギャラリートークはあえて、 入り口付近の一箇所のみでさせていただきま した。黒と白を美しさの原点とし、色彩が加わ

ることで光を追求していった愛あふれる影絵 の世界を皆さんはどう受け止めて下さったの でしょうか。出口ではこんな会話を耳にしました。 「お父さん やっぱり来てよかったやろ」「ああ ほんまや」 [冨岡洋子]

大塚国際美術館 研修旅行 [9.17] 陶板ってどんなもの? 世界中の名画が見ら れるのよね? 期待に胸を膨らませ訪れた大 塚国際美術館。長いエスカレーターを登ると そこにはバチカンのシスティーナ礼拝堂を再 現した厳かで美しい異空間が広がっていまし た。そこで私たちがまず体験したのは「ダ・ヴ ィンチ・コードツアー」。世界的ベストセラー小

説『ダ・ヴィンチ・コード』に登場する名画を物

語とともにたどるというもので、美術館スタッ

フの巧みな話術と様々な仕掛けに導かれて、 私達は絵画に隠された謎を紐解くミステリー の世界にすっかり引き込まれてしまいました。 世界に点在している名品絵画を陶板画を使 って一同に展示している当美術館ならではの 趣向です。まさにタイムリーなギャラリートー クと陶板の美しさ、世界各国の芸術を半永久 的に後世に残そうという試みと志しに感動し た一日でした。 [木村真由美]



C

٧

が

見

た

12

رنا

トグラフ・紙 44. 0×26. 8 5 高松市学

っていったであろう。でているかのよう、を持つ軽業師の顔 面でしょう 不師の なくコ り。 ついていますがの圧力などに きる で しす。 陰 なた。 を楽した。作り 影 によって L ん作 て黒いシミがのちこちに手 者 で い は

人形

ようでどこと

ドキの

渡

ハランス棒をはカルです。

ででで

き

登つ

閉鎖、作者自身も危動きのなかナチスの弾がウハウスは「退廃芸」に関係されました頃に制作されました頃に制作されました頃に制作されました頃に制作されません。 立後、 よる題 るす。 して迫害を 不安なで の Y安な感じは、作者のたどMと黒のグラデーションに綱渡り」という緊張感のあ 受けることになりま なの第 を 廃芸術」 教鞭 たド 危 危弾圧 を イツで、世界大 いたようは偶然で 人物と 来の

うにも見えます。バランスをとうにも見えます。バランスをと神の存在をあらわす十字架のよスポットライトのようでもあり、網と重なった背後の白い十字は、涙が描かれているのでしょうか。涙が描かれているのでしょうか。

りなが

歩んで

ら

でいるかのようでせら一歩一歩不安・バラン

安な

人生

す

法によっ

ので

鉛筆デッサンを同紙をカーボン紙のです。黒の油彩を

写の を 転自

示しているかった人生と呼

るかのとい

ようです

0

到

[木村真由美

方

を作

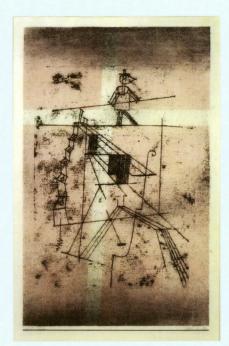
者

によって画気の線描部分

す。黒面のに

四(版)上に転は、作者独立

写の



2005年4月16日(土)

真野響子氏、ゲント美術館名品展を鑑賞



「女優の真野響子 さんが展示室にい る!」そう連絡を 受け、展示室に向 かうと、オーラを放 つ凛とした女性が 絵の前でたたずん でいるではないで すか!真野さんは 映画『春の雪』の 撮影で栗林公園 に来られ、合間に

ふらっと美術館に立ち寄られたとのこと。さすが、かつてNHK教 育「日曜美術館」の司会をされていただけあって、美術にお詳 しく、ゲント美術館にも行かれた事がおありとのこと。写真はクノ ップフ《香》と向き合う真野さん。映画のワンシーンのようですね。 [高松市美術館学芸員 牧野裕二]

## 5月7日(土) 中学生と美術(館)と私

「ゲント美術館名品展」は、19世紀から 20世紀前半の西洋近代美術の流れを 見ていくというオーソドックなものだった。 一見「フツー」であるからこそ、そこにゲ ムのような遊びを持ち込むと、すまし た作品の意外な面が立ち現れてくるも のである。そして、そのゲームを通して 作品を鑑賞するプログラムの主体ある いはファシリテーター(進行役や引き出 し役)として働くのが中学生であれば、 そこはどんなに新鮮な出会いの場にな るであろうか、という発想から生まれた「 まるごと探偵クラブ」。この5月7日(土) のドキュメントは、美術館のHPにもアップ



ゲームの進行役として活躍する中学生と参加

しているので読んでほしい。(http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/647.html) 美術(館) で主体的に活動できるという経験が、共通のものとして、このクラブに関わった中学生・ 教師・ボランティアスタッフ、また当日プログラムに参加した小学生たちの記憶に残った であろう。主体は中学生みなさんの方にあって、私は美術に関するこれまでの経験を開 示し彼らに寄り添うことによって、活動というものが驚くほどダイナミックに展開しうるとい うことを初めて知ることになった。 [高松市美術館学芸員 毛利直子]

## civi主な活動

# ' 05

- 3.4-3.21 「集合のイメージ 高松市美術館コレクション展」ギャ ラリートーク(会期中毎日曜・祝日、各日午前・午後、 開催回数のべ8回、参加者数のべ122名)
- 4.15-5.29 「ゲント美術館名品展 西洋近代美術のなかのベル ギー」ギャラリートーク(会期中毎日曜・祝日、各日
  - 午前・午後、開催回数のべ21回、参加者数のべ470名)… 5.7 「まるごと探偵クラブ ゲント美術館名品展の秘密を 探せ!」スタッフ…「美術館日記」参照
  - 5.28号『リビングたかまつ』インタビュー「美術館通が語る 穴場とは…」(大澤宏敏、堀本真弓)…「アニキ」と 「堀ネエ」、長きに渡り熱く語るが、掲載記事ではか なりコンパクトに
- 5.29/6.12/子どものアトリエvol.6「遊びのかたちーエンジョイ・ アート!」(講師:大島よしふみ)アシスタント…造形 6.26/7.10
- 作家・大島よしふみ(通称ゴリさん)とともに、動くお もちゃを制作。
- 「都市の美術 高松市美術館コレクション展 [ 」ギャ 6.10-6.26 ラリートーク(会期中毎日曜・祝日、各日午前・午後、
  - 開催回数のべ6回、参加者数のべ80名)···B
  - 6.16 高松老人大学におけるカードゲームアシスタント… 美術館所蔵品紹介(講師·高松市美術館 牧野裕二) の余興として、初の高齢者対象のカードゲームを実 施。老若男女問わず楽しめることを実感。
- 7.22-9.4 「光と影のシンフォニー 藤城清治の世界展」ギャラ リートーク(会期中毎日曜・祝日、各日午前・午後、
  - 開催回数のべ12回、参加者数のべ250名)…し 7.23 西日本放送ラジオ『波のリラジオ』出演(大澤宏敏、 堀本真弓)…「子どものアトリエvol.6」講師の大島よ しふみ氏がパーソナリティをつとめる番組に生出演。 名コンビ再び。シヴィへの思いを熱く語る!?
  - 8.2-8.3 「アートで遊ぼう番外編」ぼくらのペーパーテント村」 アシスタント…美術館内随所で新聞紙によるテント を制作。博物館実習生とともにアシスタント
    - 小学校教科別研修会(図画工作)において「藤城清治展」GT
    - 大塚国際美術館 研修旅行…

私は結構有名犬なのできっと見覚えがおありだと思います。と言 っても顔は知られていますが名は売れていません。私が産まれた のは350年ほど前になります。飼い主はスペイン国王フェリペ4世

殿下。いつもは狩り 好きの国王のお供を したり王女様の遊び 相手をしたりして暮 らしておりますが、 絵のモデルをしたこ ともございます。国 王殿下の書斎を飾る ために描かれたご家 族の肖像画の中に登 場しています。この 絵には9人の人たちに 混じって私も一番前 で毛並みも毛艶も良 く描かれているので すが、なんと言って もスポットライトを



浴びているのが国王の末娘で5歳になるマルガリータ王女様です。 もうこの絵のタイトルおわかりですね。《ラス・メニーナス(女 官たち)》。19世紀になってつけられたタイトルですが、当時は、 「家族の絵」「王家一族」とも呼ばれておりました。では国王と

女王マリアーナ様はどちらにと思われるでしょう。実は作者のべ ラスケスさんが大きなキャンバスに描いているのが、お二人のよ うです。だって私の目の前にお二人が立っておられますから。

# 新連載

-今回のわき役

同じ姿勢でモデル をしているのはとて も大変で王女様もす こしご機嫌よろしく ないようです。私も、 道化師の男の子が足 で背中を蹴るのは我 慢なりません。そろ そろ散歩にも行きた くなってきました。 私に会いたくなった ら是非、プラド美術 館にお越しください。 皆さんにお会いでき た折には、嬉しくて しっぽを振ってしま うかもしれませんが 「榊原信子]

図版:ディエーゴ・ベラスケス《ラス・メニーナス(侍女たち)》1656年 プラド美術館蔵



2005年3月13日(日)秋山陣ワークショップ「土をつくること、触 れること、感じること」

…まず秋山さんが「今日は、皆さんが抱いている陶芸のイメージを忘 れて、土を作りましょう」と呼びかけました。…色も性質も異なる土の かたまりを、木槌で叩いて砕いてはふるいにかけ、…細かくなった土 に水を含ませて、練ったりこねたりして、それぞれの「粘土」が生みだ されました。…午後からは、それぞれに誕生した「粘土」で、「人型(ひ

とがた)」あるいは「自分」をテーマとして造形を作っていきました。最後に秋山さんは「土は何億・何万 という歴史を生きてきて、地球に一瞬しか生きれない私たち人間と出会う。その土のエネルギーを分 けてもらって・・・」といったご自分のライフスタイルや世界観も話されました。長い歴史を刻んできた 「土」、そして長短はあっても各人人生を背負っている私たち。それぞれの個性が触れ合った時、その 時々に感じたからこそ見られる「顔」が、参加者やその作品に立ち現われたように思いました。



2005年3月27日(日)伊藤存ワークショップ「脳の土地のた めのドローイング)

…「脳の土地」っていう不思議な言葉が頭のどこかに引 っ掛かり、参加された方々約30人。…絵の中、つまり 脳の中はいくらでも自由なので、「富士山を指でつかむ こと」も「頭髪が虎に変容すること」も可能です。今回、

思い思いの風景を描いてもらい、その風景を感じるにふさわしい自分の身体の一部 を風景とつなぎ合わせました。そして、出来上がったそれぞれの風景を、ひとつに つなぎ合わせては再び描きこんだりして、「ありえない風景」を「感じたり」「見 たり」して楽しむことができました。人の感覚はとても面白いものです。まして、そ うして集積された「風景画」の中を散歩することはさらに面白いことでした。…

\*いずれも高松市ホームページメールマガジンバックナンバーに掲載された毛利直子の文章より抜粋

# なきと変しませてから、こ 時~、午後2時~1日2回、では、一時~、午後2時~1日2回、では、日本のかられざるエピソードがある。

## 編●集●後●記

、少しショックでもありました。私の中のアンソール像を帆追修 せねば!「高**松市美術館学芸員 牧野裕二**〕 夏の終わり、グランドオープンしたモエレ沼公園(札幌)を訪れた。 川県辛礼にアトリエを構えたイサム・ノグチの最後の仕事は、夏を しむ北の空のもと、雄大な景観を見せ、私たちを過去から未来へ 誘っているように思えた。いつまでもそこに居たい気持ちが [高松市美術館学芸員 毛利直子]

## 美術館の今後の予定(10~3月)

## 【特別展】

ジェームズ・アンソール展 10.21(金)~12.4(日) 昭和モダニズムの金工家たち 高松市美術館コレクション展(Ⅱ) 2006.1.20(金)~2.5(日)

### 【常設展】現代美術と工芸

第4期 11.3(木·祝)~2006.1.15(日)

①異空間への招待 ②うるみ会の作家たち

第5期 1.21(土)~3.26(日)



北原千鹿《金地毛彫皇土讃仰圖 手函》1944年 高松市美術館蔵 写真=高橋章

- ◆ボランティア通信「しびの一と」、シヴィのギャラリートークに関するご意見・ご感想
- ◆本紙記事「知っとった?美術館」で取り上げてほしいもの
- ◆美術に関する素朴な疑問…etc.

などがありましたら、郵送・ファックス・美術館内のアンケート等でお知らせください。 シヴィの活動および、しびの一との紙面作りの貴重な参考にさせていただきます。

### 高松市美術館 ボランティア係

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 TEL087-823-1711 FAX087-851-7250

展覧会やワークショップの案内など、最新の情報を満載!いちど、のぞいてみてください!

## 【開館時間】

火~金:9時30分~19時 土·日·祝日: 9時30分~17時 (展示室の入室はいずれも閉館30分前まで)

### 【休館日】

月曜日(ただし、休日と重なる場合はその翌日) 年末年始(12月29日~1月3日)